

事業コード	H18-建-継-40		区 分	国庫補助 県単独
事業名	総合流域防災事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災班 (tel) 018-860-2515
路線名等	大沢川		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	にかほ市平沢		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	S60 ~ H26 (30年)	総事業費	40.9億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	延長L=3932.0m 計画高水流量Q=160m <sup>3</sup> /s					
事業の立案に至る背景	大沢川は上流部において天井河川をなし、しかも急勾配であり下流部は比較的緩くなるが蛇行が著しく、河積も狭小であるため出水のたびに家屋や耕地に浸水被害が発生した。このような浸水被害を解消を図るため昭和60年から小規模河川改修事業に着手し下流より順次改修を進めてきた。					
事業目的	河川断面を拡幅し、浸水被害の解消を図る。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	4,080,900	4,080,900	0		
	経費 内訳	工事費	2,900,500	2,900,500	0	
		用補費	720,300	720,300	0	
		その他	460,100	460,100	0	
	財源 内訳	国庫補助	0	0	0	
		県債	0	0	0	
その他		0	0	0		
一般財源	4,080,900	4,080,900	0			
事業内容	掘削、護岸工、橋梁工、排水工、用地補償	掘削、護岸工、橋梁工、排水工、用地補償				
事業の進捗状況	全体計画 40.8億円 平成17年度末投資額 25.5億円 事業進捗率 62.5%					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	あきた21総合計画の中で河川の氾濫から人命や財産を守り安全で安心な地域をつくる河川改修の推進に位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	下流区間が未完成であるため、上流区間の改修効果が十分発現できておらず、効果を発現するためにも早急に改修を実施する必要がある。そのために鉄道橋の実施が急務であるが、鉄道側の事情により県河川関係は同時着手が出来ないため期間を要している。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	改修延長 / 要改修延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	44.2 %		データ等の出典	県河川砂防課	
	実績値 b	44.4 %				
達成率 b/a	100.5 %		把握の時期	平成18年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	国道7号より上流は暫定完成しているが住宅が密集する下流の改修が未着手の部分が多く、地域住民から早期完成が望まれている。	26点
緊 急 性	現況河川において、家屋が密集する下流区間が未改修であり浸水被害が発生した場合には被害が甚大である。	8点
有 効 性	(手段の妥当性) 現川改修であり経済性においても有利であるため代替え案立案の必要性は生じない。 (整備効果) 改修実現により、上流改修済み区間と一連で整備効果が発現する。	20点
効 率 性	(費用対効果) 事業の費用便益比は27.64であり経済的な妥当性は高い。 (コスト縮減への取り組み状況) 建設発生土の減量化及び現場内での流用に努めコスト縮減に努めている。	13点
熟 度	(地域の状況) 地元より河川改修事業に強い要望がある。 (環境対策) 護岸整備を最小限とし、左岸山付け部や現況河道は極力保全し生態系に配慮している。	13点
判 定	ランク ( ) 地元からの要望が高く「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。	80点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該事業の施工にあたっては、事業計画を踏まえ、災害の防除が早期に図れるように引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 河川改修事業

事業コード(H18-建-継-40 )  
箇所名 (にかほ市平沢 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	想定氾濫区域内の状況 浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49~10戸	7		
		10戸未満	3		
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59~10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	3	
		2~1施設	3		
		無し	0		
	整備計画の策定 関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	
		協議中であるが特段問題ない	3		
		策定に着手していないが予定がある	1		
		予定無し	0		
計			30	26	
緊急性	災害発生危険度 改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10		
		40~59%	7		
		60%以上	5		
	秋田県水防計画 重要水防地域	評定基準区分A	5		3
		評定基準区分B	3		
計			15	8	
有効性	上位計画への貢献度 あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
		施策目標とは別のその他関連事業である	0		
	河川整備の有効性 安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3		
	地域開発の計画がある	1			
計			20	20	
効率性	事業の投資効果 費用便益比(B/C)	2.0以上	5	5	
		1.0以上~2.0未満	3		
		1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	3	
		2項目	3		
		1項目	1		
		無し	0		
当初計画との比較 当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計			15	13	
熟度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	十分に配慮されている	5	5	
		配慮が不十分で検討している	3		
		特に配慮はない	0		
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	10	3	
概ね進捗(90~100%未満)		5			
計画より遅れている(90%未満)		3			
計			20	13	
合計			100	80	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		